

2022年4月23日(土)

北海道高等教育研究所 2021年度第2回研究会

「コロナ下の学生生活の状況

—学生相談と生活実態調査から—」


コロナ禍における学生生活


札幌学院大学学生相談室カウンセラー


辻 由依(臨床心理士/公認心理師)

本日の内容

 本学の学生支援体制

 コロナ禍での学生相談と学生の様子

 メンタルヘルスアンケート

 これからの課題と展望



本学の学生支援体制

2021年度から2キャンパスとなる

江別キャンパス



- ・人文学部
- ・法学部
- ・大学院

新札幌キャンパス



- ・経済経営学部
- ・心理学部
- ・大学院

※心理学部は2022年4月に移動

本学の学生支援体制

アクセシビリティ推進委員会

学生相談室

・カウンセラー

サポートセンター

・障がい学生支援コーディネーター
・学生支援課職員

学生支援課

保健センター

担任
学科長
科目担当教員

学生

保護者

キャリア
支援課

図書課

国際交流課

教育支援課

総務課

学外機関
(連携)

広報入試課

情報処理課

管財課

医療機関

外部就労
支援機関

政策推進課

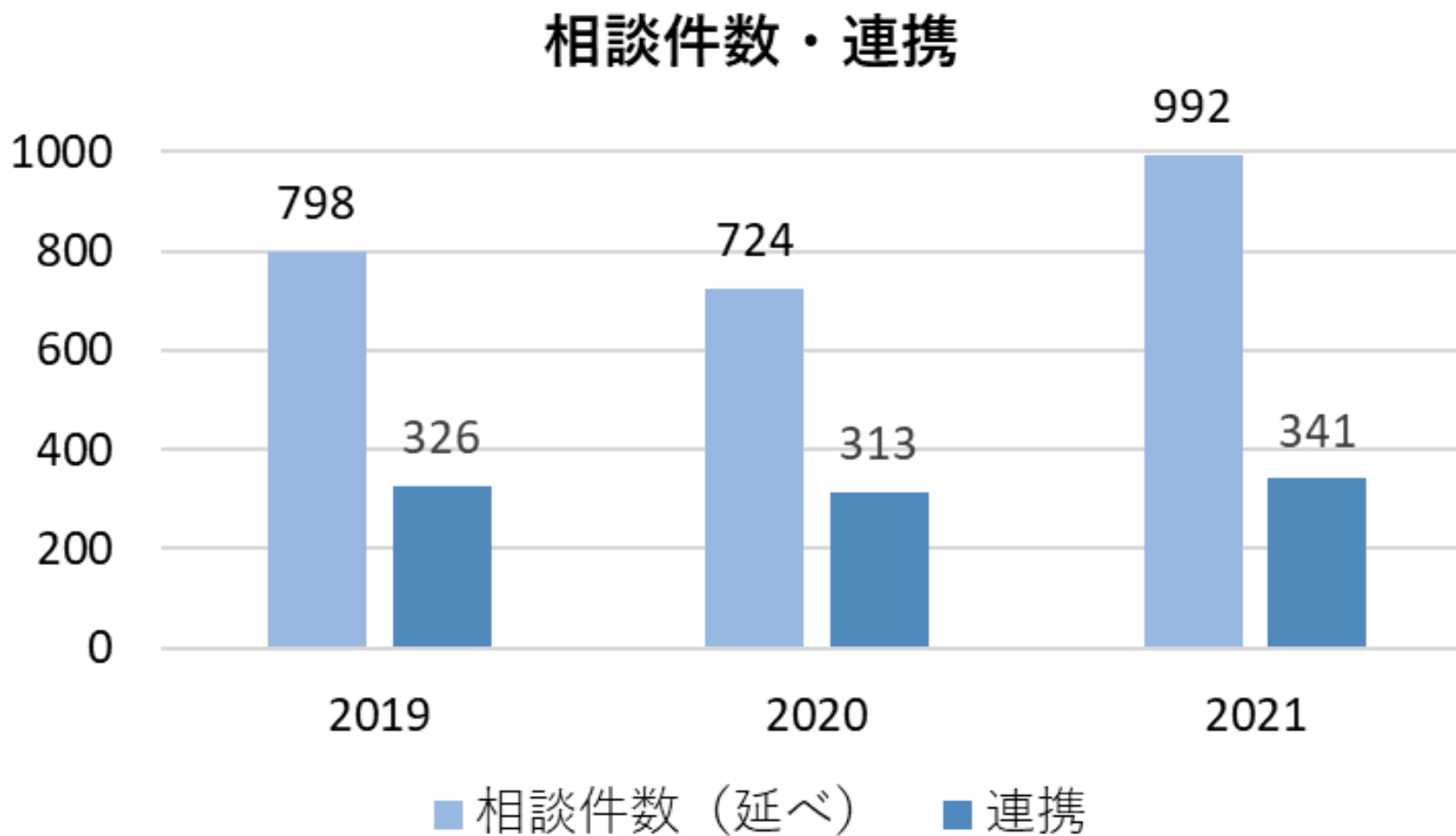
社会連携課

事務局長
・事務長



コロナ禍での 学生相談と学生の様子

相談件数・連携（2019～2021）

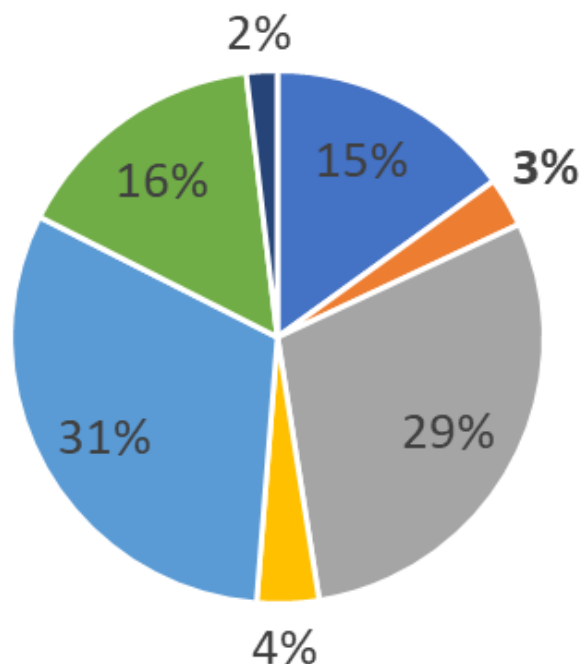


※連携:教職員, 保護者, 地域の関係機関等

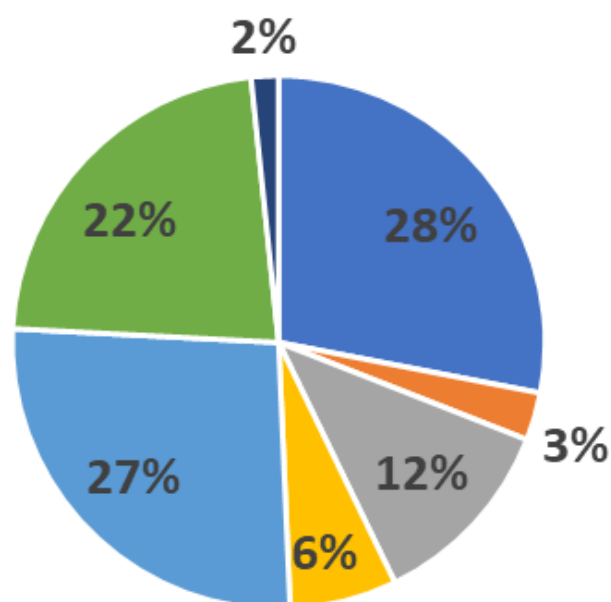
相談内容内訳

コロナ禍

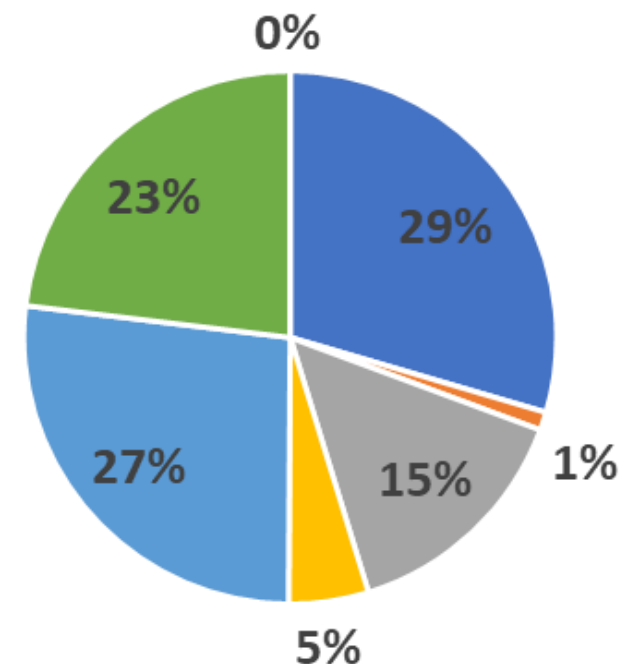
2019年度



2020年度



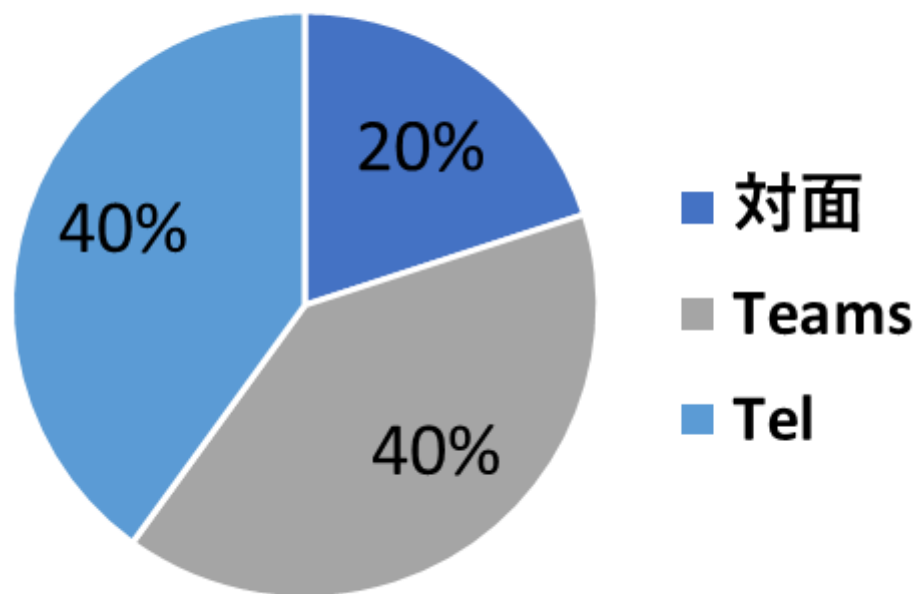
2021年度



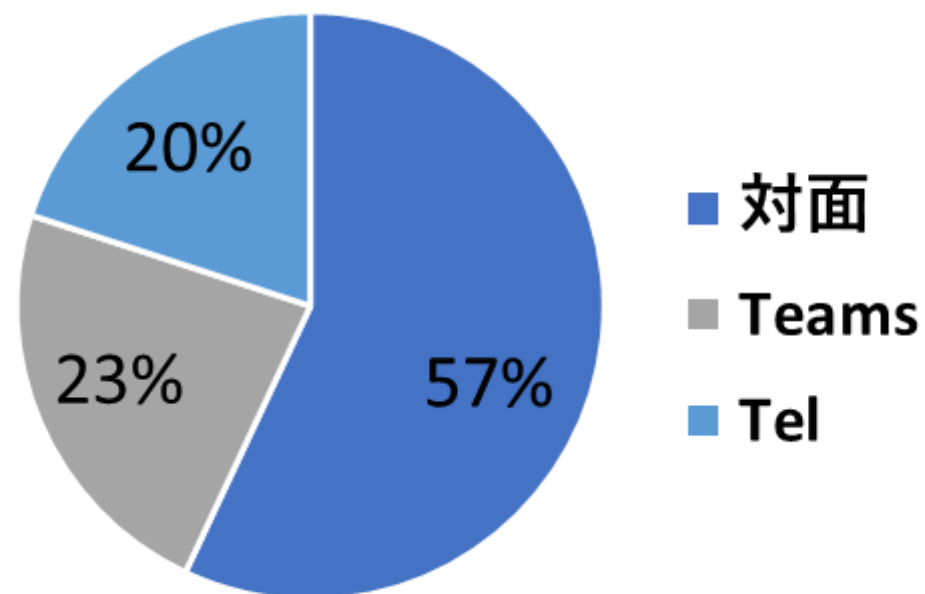
- 学業
- 生活
- 人間関係
- 性格
- 健康
- 将来
- その他

相談方法（2020年度→2021年度）

2020年度相談方法



2021年度相談方法





メンタルヘルスアンケート

メンタルヘルスアンケートについて

<背景>

- 学生相談に関する今後の課題として、「**悩みを抱えていながら相談に来ない学生への対応**」がトップ（日本学生支援機構, 2019）。
- 精神的不調は後の学業成績に対して負の影響を与える（Richardson et al., 2012）。
- 学生相談室の存在を知らない人もいる？

メンタルヘルスアンケートについて

<目的>

1. 精神的に不調な学生の早期発見・早期対応
2. 学生相談室の存在の周知

<方法>

学年	配布(周知)方法	回収方法
1年生	ガイダンスで配布(紙)	ゼミで回収
2年生	初回ゼミ等で配布(紙)	配布したゼミ等で回収
3年生以上 (院生含む)	Moodle上で実施	Moodle上で回答を収集

メンタルヘルスアンケート(内容)

◆氏名, 学籍番号

全学年共通

◆相談窓口を知っているかどうか

◆居住形態

1年生のみ

◆不安に思っていること

◆大学生生活の満足度(0~100)

2年生以上

◆友だちに学生相談室を勧めたいかどうか

◆K6(精神的不調; Kessler et al., 2002; Furukawa, et al, 2008)

◆PWBS短縮版(well-being; 岩野他, 2015)

全学年共通

well-beingとは？

- ◆精神的な良好さを示す指標 (岩野他, 2015)
- ◆潜在能力を発揮し, 自分の人生にコミットしている状態を示す (Ryff, 1989)

PWBS (well-being)

人格的成長

自己受容

人生の目的

環境制御力

自律性

積極的他人関与

メンタルヘルスアンケート(結果)

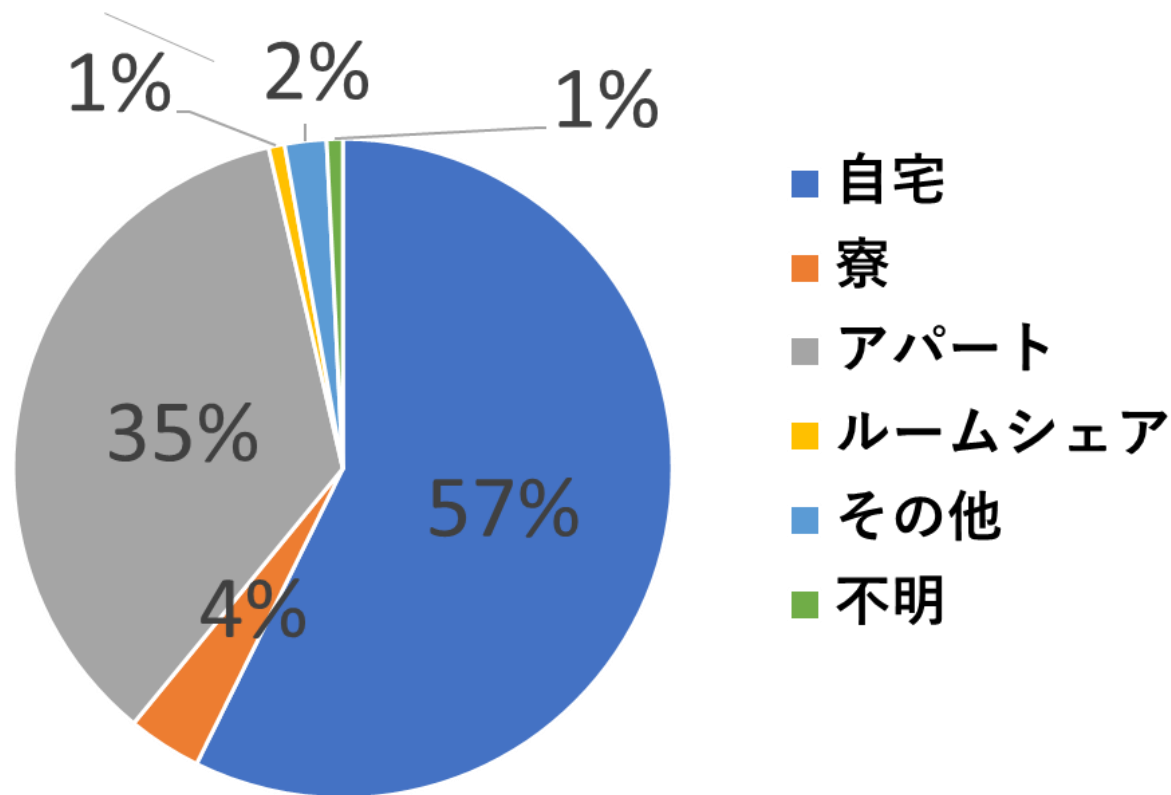
回答者数


学年	回答者数	回答率
1年生	635名	81.31%
2年生	617名	65.57%
3年生	64名	9.14%
4年生	73名	10.04%
全体	1389名	44.11%

※回答率の算出に使用する母数の学生数は4月1日時点で計算。

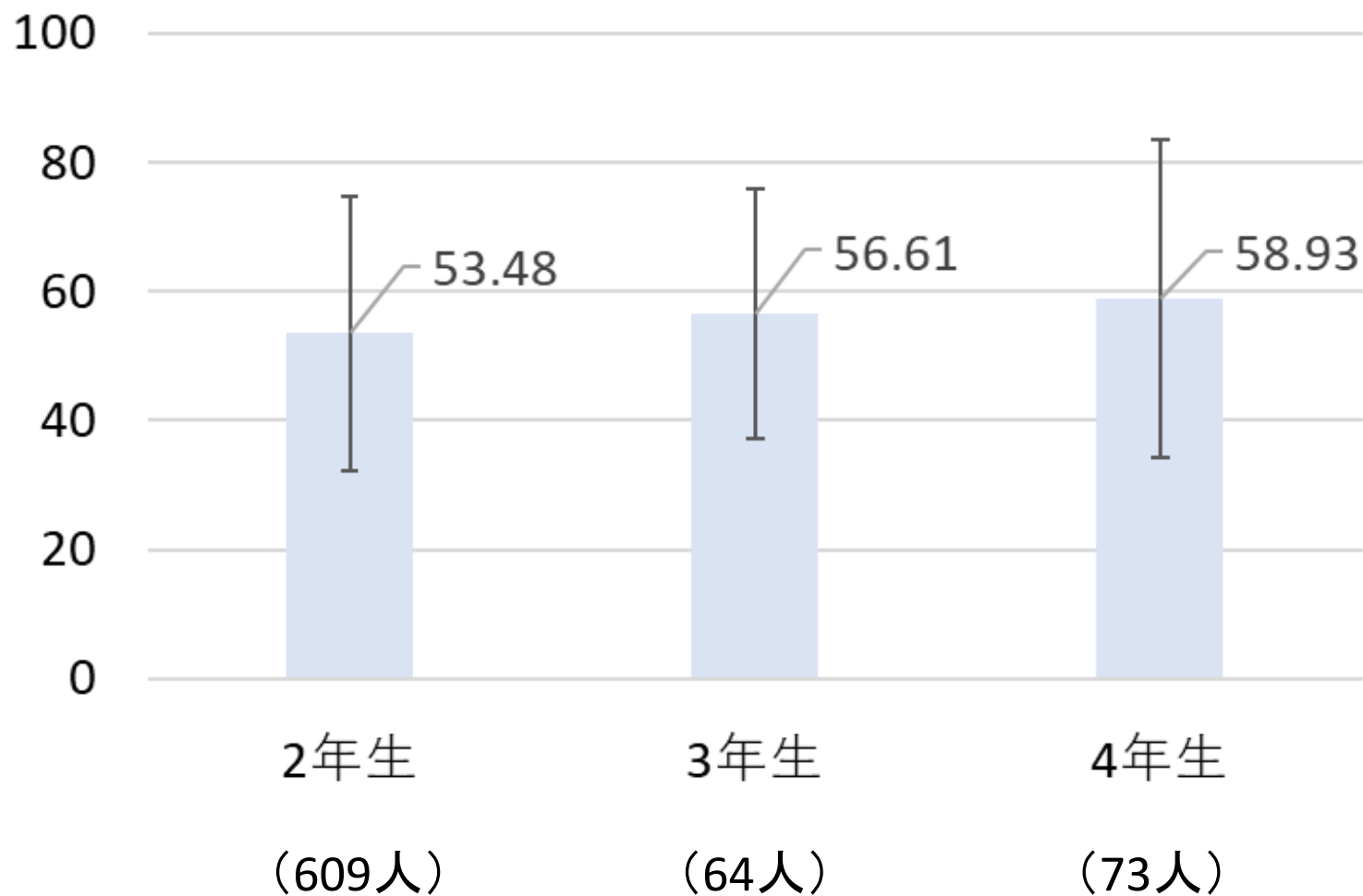
※院生は回答者数0人。

居住形態（1年生）



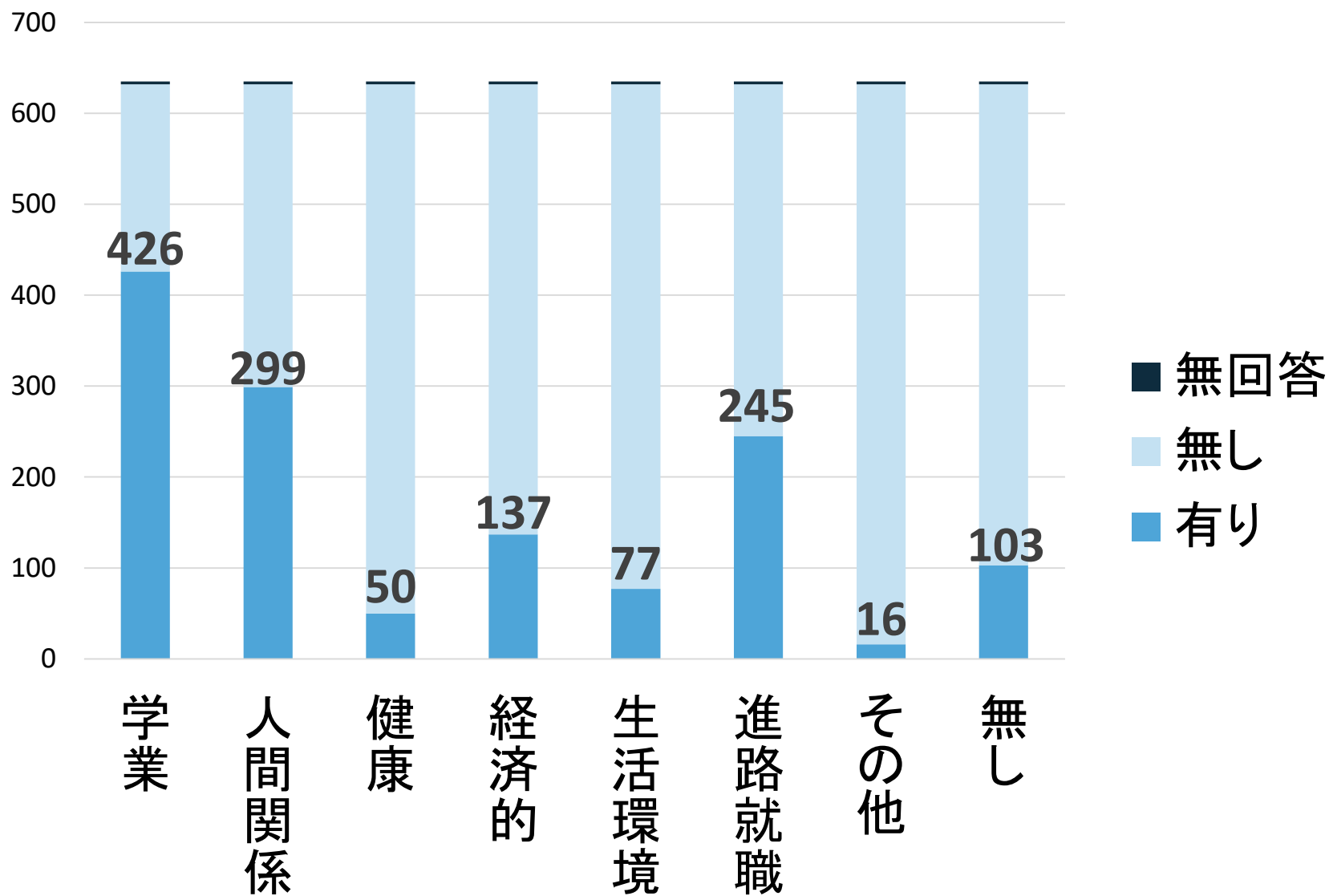
- 
- 👉 居住形態の違いによって、精神的不調や well-being の得点に差は見られなかった。
 - 「実家にいるから安心」、「一人暮らしなので心配」と一概には言えない。
 - どのような対人ネットワークをこれまで築いてきたのか、という点も重要。

満足度(2~4年生)



◆ 学年間で
有意差なし

不安の有無（1年生）



学生相談室を勧めたいか

(選択肢)

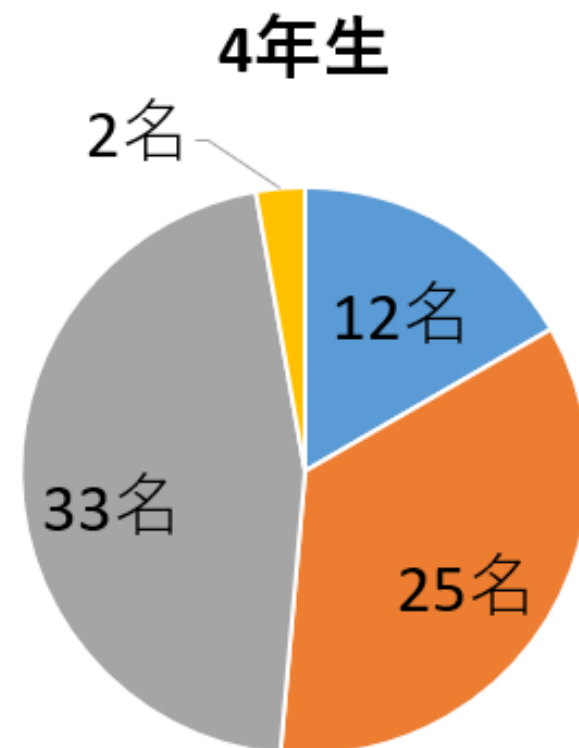
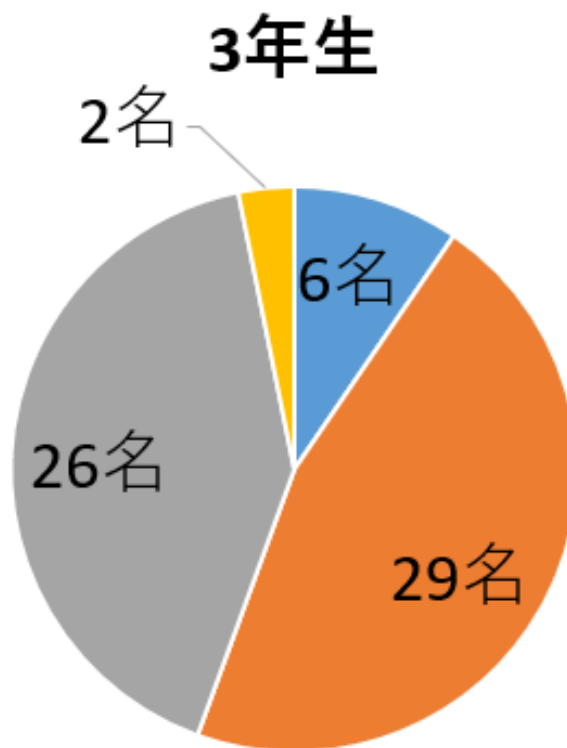
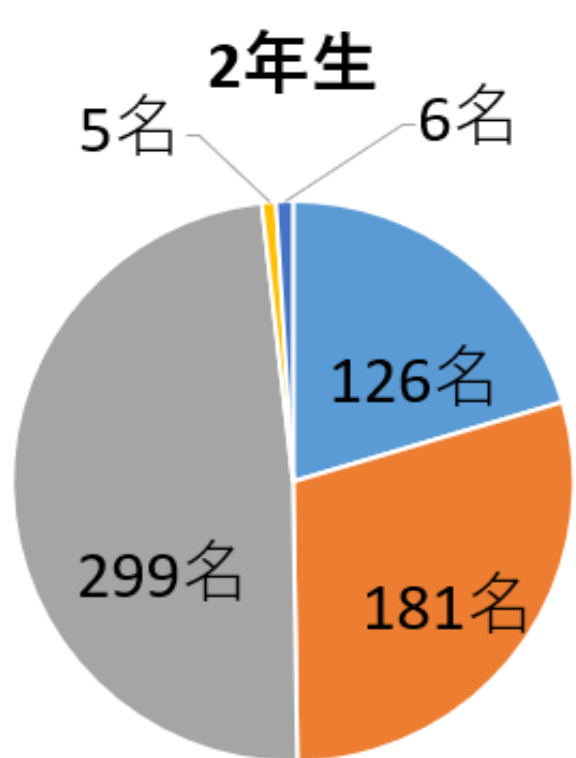
■ 1:非常に勧めたい

■ 2:少し勧めたい

■ 3:どちらともいえない

■ 4:あまり勧めたくない

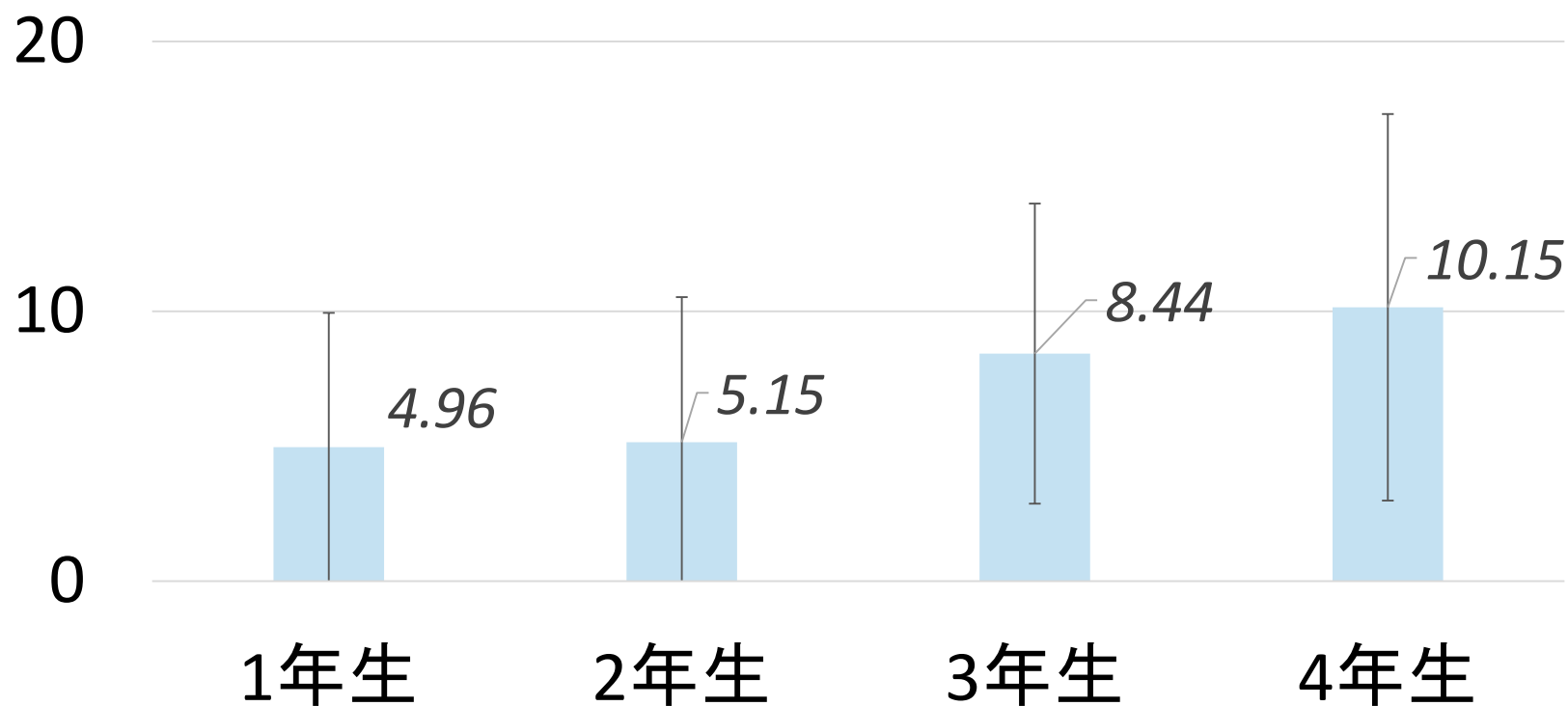
■ 5:全く勧めたくない



学年別の精神的健康度（精神的不調）

K6（得点0～24）

Cut-off = 9点



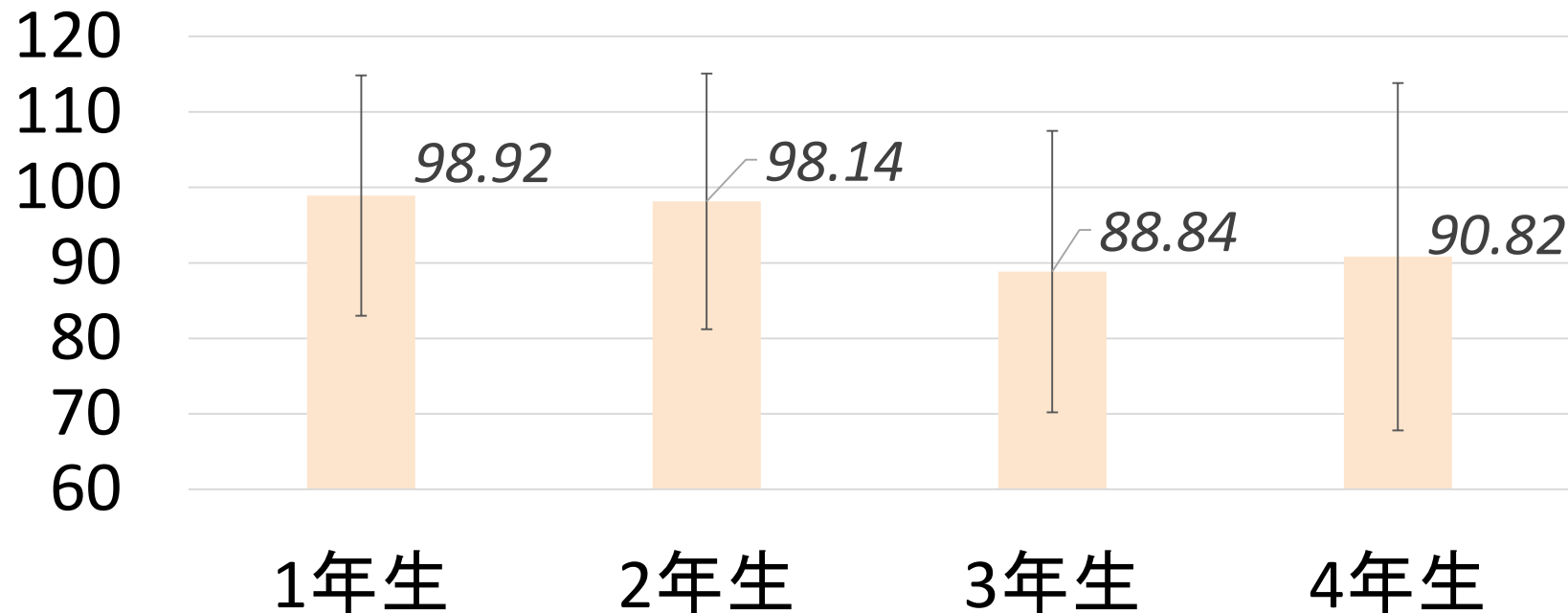
1年生 < 3年生, 4年生 ($p < .001$)

2年生 < 3年生, 4年生 ($p < .001$)

学年別の精神的健康度 (well-being)

PWBS (得点24~144)

平均値 = 98.5点
(岩野, 2015)



1年生 > 3年生, 4年生 ($p < .001$)
2年生 > 3年生, 4年生 ($p < .001$)

ここまでのまとめ

- 相談窓口の周知は引き続き。
- 約半数が学生相談室を勧めたいと考えている。
 - 残りの約半数について、理由の検討が必要。
- 1,2年生より,3,4年生の方が精神的に不調であり,well-beingも低い。
 - 「3,4年生は対人関係が出来ているから大丈夫」ではない。
 - しかし,3,4年生の回答数は少なく,回答者に偏りがある可能性もあるため,考察には注意が必要。

学生への連絡

《連絡対象学生》

1. 学生相談室での相談を希望する学生
2. K6のカットオフ(9点)を超えた学生に連絡。

計518名の学生に連絡

《連絡方法》

1. 電話2回
2. メール2回
3. ポータルで連絡1回
4. お手紙

連絡をした結果

- 学生相談室での相談につながった学生の存在。
- 継続相談には至らなかった学生にも、学生相談室の存在を伝えることが出来た。
- 「何かあればいつでも連絡を」と伝えたので、何かあった時に頼れる相談窓口の一つとして 頭の片隅に残っているとよい。

メンタルヘルスアンケートの展望

- メンタルヘルスアンケートの結果を基に、
どのような要因が、学生不振（休学、退学、留年等）や
重大なリスクにつながるのかを予測。

⇒ 予防に生かしていく。



これからの課題と展望

これからに向けて

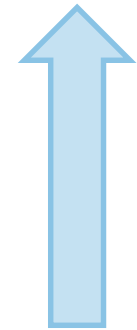
- 2022年度, 札幌学院大学は基本, 対面授業
(必要に応じ遠隔授業も。)

学生は再適応のプロセスを踏む。

再適応に向けたプロセス

- 対面に戻ることに不安を抱えた学生への支援。
- 対面を希望していた学生でさえ、不安定になる可能性。

環境が変わること自体が負荷（ストレス）。



それが自然だよ, ということ
を学生にも教職員にも伝えておくことが重要。

再適応に向けたプロセス

- 対面に戻ることに不安を抱えた学生への対応。
 - コロナへの感染不安。
 - 対人的な不安がある学生。
 - 生活リズムが崩れている学生。
 - その他、何らかの理由で通常の授業参加が難しい学生への配慮。どこまでの配慮が必要なのか??

起こりうる事態に備える

例えば…

「対面の講義に出られない。遠隔で対応してほしい」

(学生の状況)

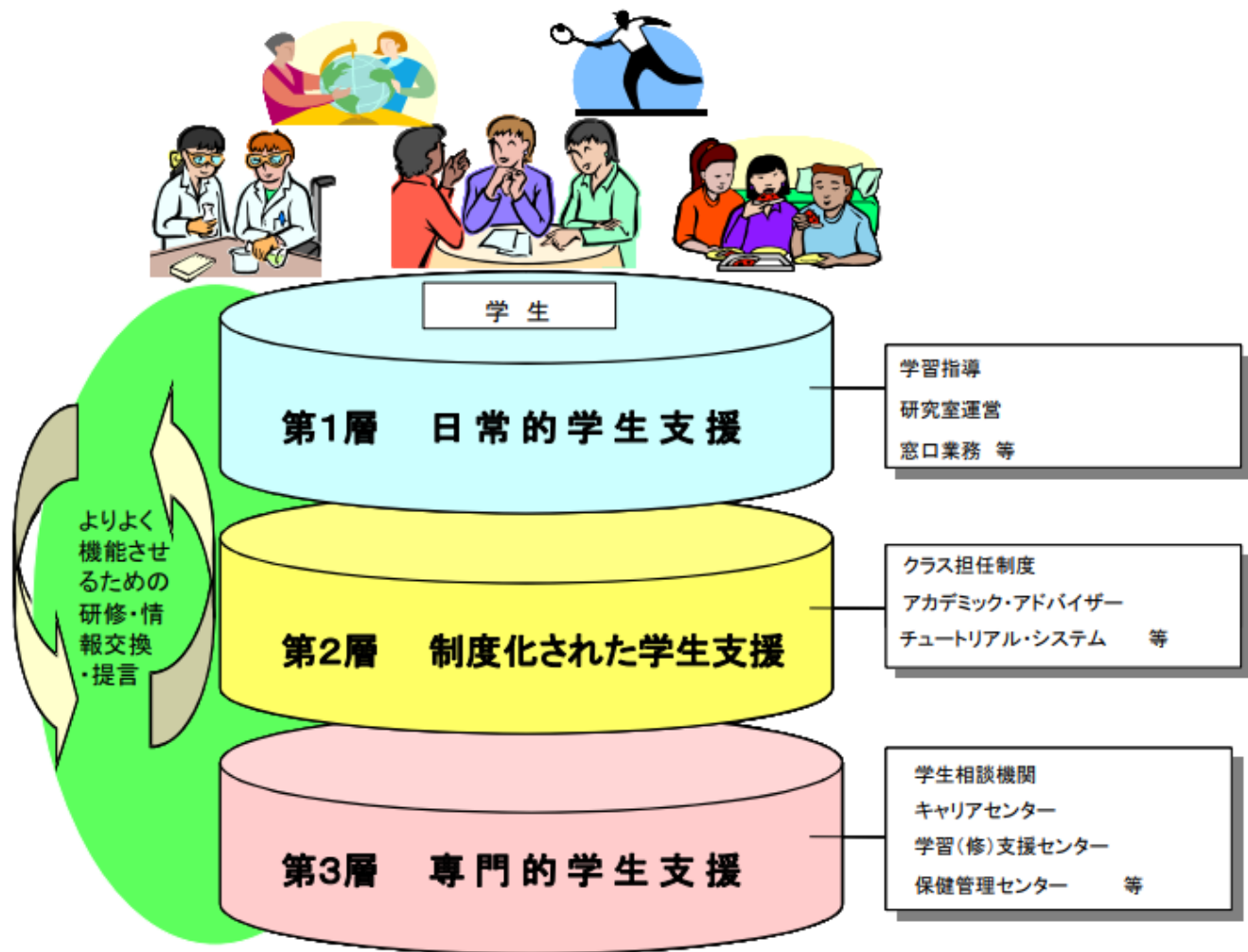
- この2年間で、遠隔スタイルに慣れた。
- 遠隔でしか授業を受けていない(それが普通)。
- 遠隔授業という選択肢が出来ている状態。

- この学生はどのような状態？支援が必要？必要だとしたらどのような支援が必要？ が分かりにくい。
→対面での対話の減少と情報の不足。



- まずは学生の希望やその理由を丁寧に聴く。
- 教職員や専門職との情報共有。
- その学生にとっての“今の目標”を確認。

これからの学生支援の在り方



- 学生支援は大学教育の重要な役割の一つ。
- 不調な学生だけではなく、全ての学生の成長を支援。
- 3層の連携・協働の重要性。

最後に

- 遠隔を希望している学生も
- 対面を心待ちにしていた学生も
- 教職員も

対面が戻ることに伴う変化に
最適応していくプロセスを踏む。

- セルフケアの重要性。
- 潜在的な問題が顕在化することへの理解。
- 生活リズムを始め、ベースの作り直しの期間。



ありがとうございました。